

市長メッセージ（平成30年（2018年）11月1日）

『子どもの笑顔のために』

晴天の秋の心地良さは最高！と思いながら、両手を広げて深呼吸。今年は夏の気候に傷めつけられたので、ことさら「日本の秋は世界一！」と、異国の秋を知らないくせに、思っています。

秋の空で楽しいのは雲。筆でサアーと描いたようなすじ雲、文字通り魚の鱗が幾重にも重なったようなウロコ雲、いわし雲、夏の名残りの入道雲、そこに飛行機雲も浮かんでいて、見ていて飽きません。私は小さい頃からポーっとするのが好きで、とくに空を見上げながら何思うとなくポーっとしていました。まるでドラえもんに出てくるのび太のように。

団塊世代の私たちが子どもの頃は、今と比べたら無いものがいっぱいでしたが、そこかしこに空き地があって遊ぶ場所に不自由はしませんでした。また、大人たちも本当に危ないと思ったら叱ってくれましたが、とても寛容だったと思います。

宝塚のまちは全国的にみても公園の数が少なく、何とか空き地を利用して子どもたちが思いきり遊べる場所をつくりたいと努力しています。公園が少ないと家で過ごす時間も多くなりがちですし、体力向上にも支障が出ます。ただ、既存の公園でも「ボール遊び禁止」の立て札が林立しています。「ボールの音がうるさい」「子どもの声がうるさい」と苦情が多いからです。栄町3丁目にはマンションが多く、子どもたちが大勢暮らしている所なのに広い公園がありませんでした。市が懸命に探して、市議会の承認も得て、やっと公園が出来て、「栄町3丁目ゆめ公園」と名付けられ、今はたくさんの子どもの笑顔が溢れています。しかし、周りはマンションで、たくさんの方々が暮らしています。ほとんどの方は理解してくださり、温かく子どもたちを見守ってくださっています。利用時間は朝8時から日没まで。子どもは夢中になると大きな声を出しますし、喜びを全身で表します。子どもはそんなものです。

「伸びのびと、思いきり遊びたい」そんな当たり前の子どもたちの純粋な願いを叶えるために大人たちも声を上げて、公園が出来て、管理や運営も自治会などに主体的に担っていただいています。それは、未来を担う存在である子どもの活動を尊重しての運営だと考えています。子どもたちのためにも、継続的な運営をどうぞよろしくお願いします。

かつて誰もが子どもでした。親として子育てしていた頃は周りの人々に助けられたことも多かった。公園で楽しそうに遊んでいる子どもたちを見守り、優しい声かけをお願いしたいと思います。「子どもは社会の宝」。この言葉がまだ生きていることを信じます。